



日本精神衛生学会 第36回大会

～ 混沌の時代をどう生きるか～

2020年11月7日(土)～8日(日) ※Web開催

大会長 浮田徹嗣(横浜市立大学) 実行委員長 黒岩 誠(明星大学 名誉教授)
副大会長 高下 梓(松本短期大学) 顧問 影山 隆之(大分県立看護科学大学)
主催 横浜市立大学 後援 横浜市立大学学術研究会

【大会プログラム】

- 大会長講演「混沌の時代をどう生きるか—AIの進歩と精神保健」浮田徹嗣(横浜市立大学)
- 鼎談「若者のひきこもりをどう支援していくか～心理支援と就労支援の違い～」高塚雄介(明星大学名誉教授)、齋藤暢一郎(北海道大学学生相談総合センター/NPO法人メンタルコミュニケーションリサーチ)、秋田敦子(社会福祉法人わたげ福祉会 理事長)
- 大会特別企画(パネルディスカッション)「『新型コロナウイルス問題』がわたしたちの心にもたらしていること」影山隆之(大分県立看護科学大学)、阿部 裕(四谷ゆいクリニック)、小泉典章(長野県精神保健福祉センター)、有馬 斉(横浜市立大学)、平田 茜(明星大学)
- 自主シンポジウム
 - 「『津久井やまゆり園の殺傷事件』を考える(第3回)」喜多祐荘(NPO法人かでの湘南)、坂田成輝(NPO法人かでの湘南)
 - 「人と人のかかわりが繋ぐ社会への架け橋 ～NPO法人仕事の引出しから見えた取り組みと課題～」松村舞花(NPO法人 仕事の引出し)、青木智絵(NPO法人 仕事の引出し)、武笠純名(NPO法人 仕事の引出し)、平田 茜(明星大学)、高下 梓(松本短期大学)
 - 「コロナ禍における大学生を対象とした新たな談話室支援の試み—オンラインの可能性と限界を探して—」中島清貴(明星大学総合健康センター)、永井尚志(明星大学総合健康センター)
 - 「東日本大震災への心理的支援が10年目を迎えた今、考えるべきこと—継続するために必要なことについて確認・再考する—」中村 有(駿河台大学)、田村 友一(明星大学総合健康センター)、庄司 真美(杏林大学医学部附属病院)
- 一般演題(ポスター)

【参加費】 ※本大会は、どなたでもご参加いただけます

会 員：4,000円 非 会 員：5,000円 学部生および大学院生：2,000円
オンライン交流会：無料、要事前申込(※Web会議システム Zoomを使った交流の場を設けます)

【スケジュール】

事前参加登録期限：10/30(金) ※締め切りました。
参加費振込期限：11/3(火・祝)

【Web大会に関するご案内】

※事前参加登録者に限定公開する特設ホームページからの動画・資料の閲覧や、Web会議システム(Zoom)などを併用して開催いたします。
※大会関係の最新情報は、大会公式ホームページにて随時お知らせいたします。必ずご確認ください。

●大会ホームページ(参加登録・お問い合わせ)はこちら 
<https://seishin36th.jimdofree.com/>

